

水ナビ ⑪ 地域の文化・歴史・施設を活用したプログラム



ねらい

自分達の住む地域の水に関わる文化や歴史、風土を学習の題材とすることで、水が果たしてきた様々な役割を知るとともに、地域への愛着を育みます。

地域の文化・歴史・施設に学ぶ

地域には多種多様な文化・歴史・施設があり、体験学習のプログラムに活用できるものが数多くあります。前項の「地域の特色ある生物」に引き続き「水プロ」を導入している小学校の事例をいくつか紹介します。

① 高島市新旭町針江地区の「川端（かばた）」（滋賀県高島市：マキノ西小学校）

「川端」とは、地域住民が住宅の軒下などから豊富に湧き出る湧水を、飲料や炊事などの日常生活に利用し、その水が水路を伝って下流側の家々に流れていき、最後には琵琶湖へ注ぐというシステムです。

「川端」に飼われている鯉が残飯を食べるほか、水路のセタシジミや藻などによっても水が浄化されます。次に水を使う家のため、汚れた水を出さない、共同利用・共生の文化が息づいています。



② 宍道湖グリーンパーク（島根県出雲市：久多美小学校・東小学校）

久多美小・東小の近隣には、汽水湖として、シジミなどの豊かな魚介類で有名な宍道湖があります。宍道湖は国内最大級の水鳥の渡来地としても知られ、平成17年には「ラムサール条約湿地」に登録されました。水プロの授業では、水質調査やカヌー体験などを行うほか、自然公園施設「宍道湖グリーンパーク」での野鳥観察や講義などを通じ、宍道湖の環境に親しみながら学習を行っています。



③ 四万十川源流点（高知県津野町：葉山小学校）

高知県津野町には、「日本最後の清流」四万十川と、「日本最後のカワソ目撃地」新荘川の2つの川の源流点があり、それぞれ西へ東へと流れています（なんと河口では75キロも離れています）。葉山小学校では、2つの川で水生生物や水質の調査を行い、違いを比較しながら、郷土の自然環境を大切に、環境を守る姿勢を育てています。



④ さつま揚げ（鹿児島県南大隅町：大泊小学校）

鹿児島といえば「さつま揚げ」！大泊小学校の生徒も大好きなさつま揚げを、「水プロ」学習の題材に取り上げました。地元の人が漁でとってきた新鮮な魚を材料に、色々な味付けや形の「さつま揚げ」を作ってみました。



⑤ 漂着物の調査（北海道せたな町：瀬棚小学校）

瀬棚小学校では、漂着した漂流物を調査し、外国からの漂流物と思われるものは商品バーコードより製造国を調べました。

